

# 間伐によって生物多様性を豊かにする

## - トドマツ人工林の下層植生多様化試験 -



写真 - 1 無間伐

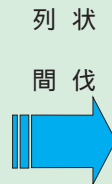


写真 - 2 間伐3年後

トドマツに代表される常緑針葉樹人工林の下層植生は、多くの場合、非常に貧弱です（写真-1）。これは、上木が混み合っているために下層へ光が届かないからです。このような人工林で、3段階の強度で間伐を行い、その後の変化を観察しました（写真-2）。

下層の光環境が改善されることにより、出現する植物種数が増加し、植生が多様になりました（図-1）。また、上木のトドマツの直径成長が促進されました（図-2）。

しかし、間伐強度を3伐2残のように過度に強くした場合、下層植生には本来林外で生育する種が増え、外来種の侵入も観察されました。また、上木であるトドマツの森林蓄積量（林分材積）も著しく減っています。これらのことより、トドマツ人工林では2伐3残

ぐらいまでの間伐を行うことが、林業としての生産性を高めるだけでなく、下層植生に象徴されるような生物多様性を豊かにするうえでも重要であると考えられます。

（育林科）

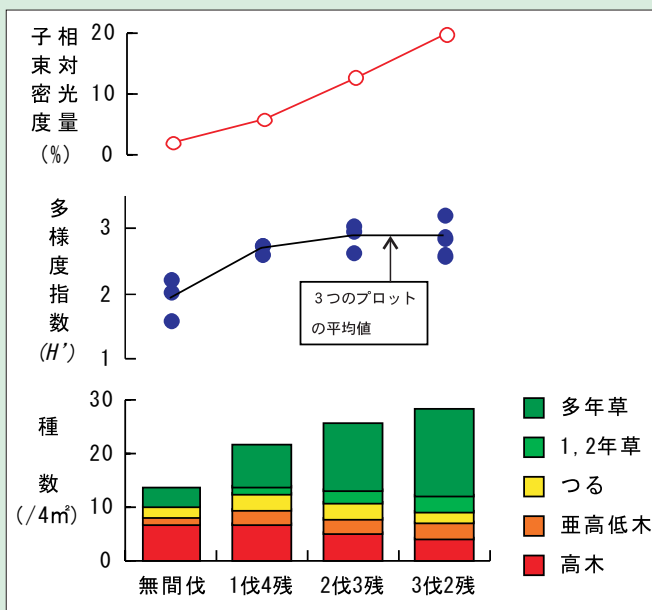


図 - 1 間伐強度にともなう光環境と種数、種多様度の变化

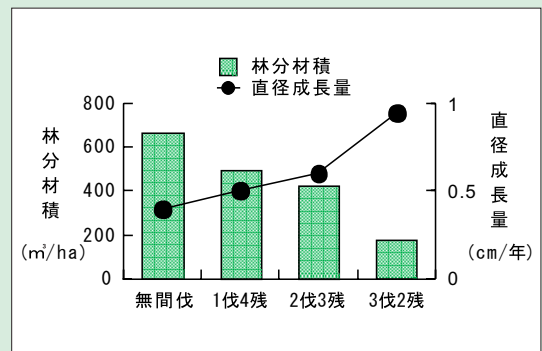


図 - 2 トドマツ林の林分材積と直径成長量